

3 研究のまとめ

本研究では、小・中・高等学校において、児童生徒の集団や個人についての実態把握を基に、児童生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を効果的に進めるための「『強み』に関する活動プログラム」（以下、活動プログラム）の作成に取り組んできました。本研究を通して、研究目標にある「児童生徒が互いに自他のよさを認め合う学級集団づくり」について提案することができたと考えています。以下に、研究の成果、課題と今後の展望等について述べます。

(1) 研究の成果

＜活動プログラムの資料作成について＞

- 小・中・高等学校全ての校種において、児童生徒の実態と発達の段階を踏まえ、児童生徒が自分や友達の「強み」を知り、互いに自他の「強み」を伝え合い認め合う活動プログラムを作成することができました。
- 書くことに対する苦手意識のある児童生徒への配慮や、授業におけるウェビングマップ等を書く活動の時間確保といった前年度の課題について、授業前に実施したアンケートの活用（小・中学校）や、学習の流れと交流活動の内容、ねらいに沿った指導上の留意点分かる「展開案」、アニメーションのタイミングや時間配分等も分かるシナリオ形式（ノート付き）の「スライド資料」の作成、活動の内容の精選などの工夫等を行い、書くことに苦手意識がある児童生徒が活動内容や方法に見通しをもって取り組むことができるようにしました。児童生徒がじっくり考えながら書くことができる時間を確保することができたことにより、その後の児童生徒同士の伝え合いも活発になり、自己理解や他者理解の深まりにつながったと考えます。
- 活動プログラムを効果的に進めるための集計ツール「あなたのよかところSAGAシート（自己肯定感チェックシート）」を作成することができました。このシートを活用することで、自己肯定感に関する児童生徒の実態を把握し、授業実践前後における児童生徒に対する理解を深めることができました。

＜「強み」に関する授業前後の取組について＞

- 3時間の授業実践以外の時間においても、児童生徒が自分や友達の「強み」を意識したりそれを生活の中で生かそうと考えたりすることができるようにするため、それぞれの発達の段階や学級の状況に応じて、授業の前後に「強み」に関する取組を行いました。各学校での実践を通して、児童生徒のワークシートを教室に掲示する、学級通信等で活動の様子などを家庭に知らせる、学級や学校での行事と関連させるなどの、具体的な取組の例を提案することができました。

(2) 課題と今後の展望

＜「強み」に関する継続的な取組について＞

- 児童生徒の自己肯定感の高まりを維持したり、更に高めたりするためには、学校生活の様々な場面で、自分や友達の「強み」を知ったり、互いに自他の「強み」を伝え合い認め合ったりする活動を継続的に取り入れていく必要があると考えます。

＜他の心理教育に関するプログラムとの併用＞

- 学習効果をより高めるために、「ソーシャルスキル・トレーニングに関する活動プログラム」（平成 22・23 年度 佐賀県教育センター 小・中・高等学校教育相談）の 1 つである問題解決技法や仲

間関係発展・共感的スキル、「ピア・メディエーションに関する活動プログラム」（平成 26・27 年度 佐賀県教育センター 小・中・高等学校教育相談）の授業を併せて実施することも効果があると考えます。

<活動プログラムの啓発と取組の推進>

○今後、児童生徒の実態や発達段階に応じた「強み」に着目した交流活動の効果的な進め方を研修講座や学校支援等で紹介して活用の啓発を図りたいと考えます。

(3) 活動プログラムを実践した研究委員の声

- ・明るく活発な反面、自分に自信がもてず新しいことに挑戦することが苦手な本校の児童にとっては、この活動プログラムの実践は、児童の自己肯定感を高めることや互いを認め合う学級づくりに大変役立った。この活動プログラムを、現場の先生方に広めていきたい。
- ・自分自身の学級経営の参考になった。「強み」に着目した交流活動の内容や進め方が分かり勉強になった。展開案やスライド、ワークシート等、全て準備されていたため取り組みやすかった。
- ・「強み」の視点で生徒と関わることができるようになり、生徒理解が深まった。この活動プログラムは、学級経営に生かせる内容であると感じた。
- ・活動プログラムの実践を通して、生徒の自己肯定感の高まりを実感できた。同時に、生徒同士の関係にも落ち着きを感じられるようになった。
- ・様々な角度から検討を重ね授業を実施したことで、自分自身の授業の組立や方法を見つめ直す良い機会となった。ふだんできない授業を受けて、生徒がいつもとは違った表情を見せてくれたことが印象に残った。
- ・授業を実践して、生徒理解を深めることができたと同時に生徒の変容も感じる事ができた。今後も、様々な場面で「強み」を振り返らせながら、自己肯定感を高めていきたいと思う。このことを踏まえ、児童生徒が互いに自他のよさを認め合う学級集団づくりを目指すために、多くの学校で、学年や学級の実態に応じて意図的・計画的に活動プログラムに取り組んでほしいと思う。

(4) 終わりに

今年度、佐賀市立諸富南小学校、佐賀市立諸富中学校、佐賀県立多久高等学校において、活動プログラム（全校種とも 3 時目「自分や友達の『強み』を生かしていこう」の授業を公開し、授業研究会を開催しました。授業研究会では、参会していただいた多くの先生方から貴重な御意見や御感想を頂き、本研究の成果と課題が明らかになりました。先生方の御参会に感謝申し上げます。本研究の成果を児童生徒が互いに自他のよさを認め合う学級集団づくりに活用していただければ幸いです。

最後に、本研究に御協力いただきました佐賀県小学校教育相談部会、佐賀県中学校教育相談部会、公開授業会場校の皆様、佐賀大学大学院学校教育学研究科准教授 下田芳幸先生へ深く感謝申し上げます。